



応援の大切さ

校長 武田 泰之

39日間の夏休みを終え、子どもたちの明るい元気な声が学校に戻ってきました。子どもたちの様子から、一人ひとり充実した時間を過ごすことができたように感じました。2学期の授業日数は81日間となります。日々の授業だけでなく、遠足、社会科見学、館岩自然の教室、修学旅行等、子どもたちが楽しみにしている行事も予定されています。2学期も一人ひとり、目標に向かって邁進する子どもたちの姿を楽しみにしています。

さて、夏休み期間中にパリオリンピックが開催されました。世界中の多くの人々が、パリに集結したアスリートの競技に打ち込む姿に熱い声援を送ったのではないのでしょうか。私はテレビで放送される多くの競技に熱中しました。バレーボール、サッカー、バスケットボール、柔道、体操、卓球、水泳、レスリング、バドミントン、マラソンなど、このほかにも多くの競技で活躍する日本の選手たちへ画面越しに声援を送っていました。順位や勝敗が決まると、選手の喜ぶ姿や悔し涙を流す場面も見られました。私も選手と同じように喜んだり、悔しがったりして、テレビにくぎ付けになる日々が続きました。多くの人々が注目したと思われるパリオリンピックですが、出場した選手のコメントから印象に残った言葉がありました。

競泳 大橋 悠依選手

「夢に見ていた有観客のオリンピックを心の底から楽しむことができた。」

バドミントン女子シングルス 山口 茜選手

「何よりたくさんの方の声援が聞こえてすごく幸せな時間だった。」

コロナ禍を経て2大会ぶりに観客が戻ったパリオリンピック。パリだけでなくフランス各地がオリンピックの雰囲気彩られ、街全体が熱狂に包まれました。スポーツには、応援がつきものです。パリオリンピックでは、競技するアスリートとともに、応援する観客の盛り上がりも素晴らしかったといわれています。4年に1度の特別な舞台にかけるアスリートの思いをその場で共有することで、心を揺さぶる瞬間をともに生み出すオリンピック本来の姿が再び戻った大会になったようです。大橋選手や山口選手の言葉にあるように、3年前の無観客の東京オリンピックと観客、アスリートが一体となって盛り上がったパリオリンピックを比較すると応援がいかに大切であるかを多くの人々が改めて実感できたのではないのでしょうか。

小学校学習指導要領解説体育編には、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」の重要性が示されています。すなわち、小学校体育科の目標に示されるように、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現することを目指すには、スポーツの楽しさは、するだけでなく、応援も含め多様な関わり方があることを体育の授業を通して子どもたちが考えられるようにすることが大切になります。例えば、体育のバスケットボールの授業において、シュートしたりパスしたりして相手チームとのゲームを楽しむことはもちろんですが、一生懸命プレーする仲間に真剣にアドバイスしたり、大きな声で励ましたりすることで、さらに運動が楽しくなることは、子どもたちの感想からも明らかです。引き続き、体育の授業では、運動そのものの楽しさとともに、子どもたちが応援する楽しさやその価値を理解できるよう努めてまいります。

2学期も教職員、保護者、地域の皆様方が力を合わせ、常に子どもたちを応援する存在として連携協力させていただきますようお願いいたします。応援される子どもたちも、きっとオリンピックで活躍した選手たちのようにその思いを感じ、頑張ってくれることを信じています。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

